



スイスの概要

1.1	地理	25
1.2	気候	25
1.3	政治制度	26
1.4	財政	28
1.5	中立性	28
1.6	人口	28
1.7	多様な価値観への開放性と国際性	29
1.8	数字で見るスイス	31



アルプス山脈とジュラ山脈に抱かれたスイスは、欧州の南北を結ぶ通信と運輸の中心です。欧州の様々な文化や言語が出会う場所です。これほど狭い地域でありながら大きな多様性を擁する国は、他にありません。スイス経済が高度成長を遂げた背景には、リベラルな経済システムと安定した政治、外国経済との緊密な連携があります。国は必要な大枠の条件を策定し、国の介入は国民全体の利害に関わる場合に限定されています。さらに、優れた教育制度と充実したインフラ設備が、スイス経済の競争力の基盤を構成しています。

1.1 地理

スイスの総面積は、41,285平方キロメートルです。丘陵や山脈、川や湖に恵まれているため、スイスは南北220キロメートル、東西348キロメートルという狭い面積でありながら、多様性あふれる景観を誇っています。スイスアルプスに加え、ボーデン湖からレマン湖に伸びる起伏のあるミッテルラント地方、褶曲山脈が連なるスイスジュラが、スイスの代表的な三つの地形を形成しています。欧州の中央に位置するスイスは様々な文化が交わる場所であり、同時に欧州の南部と北部を結ぶ通信、および交通の要衝でもあります。

欧州の淡水の6%は、スイスアルプスに貯水されています。そのため、スイスは「ヨーロッパの貯水池」とも呼ばれています。スイスには、無数の河川と1,500を超える湖があります。最も大きな二つの湖は隣国にまたがっています。南西部にあるレマン湖はフランスに、北東部に位置するボーデン湖はドイツとオーストリアにまたがっています。

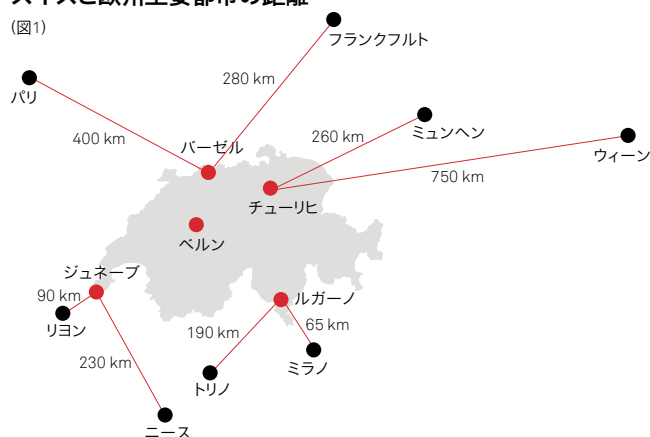
www.swissworld.org

スイスの概要

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、日本語

スイスと欧州主要都市の距離

(図1)



出典：筆者作成

1.2 気候

スイスの気候は、大西洋から大きな影響を受けています。西側から強い気流が流れ込んでおり、スイスでは温暖で湿潤な海の空気を感じることができます。夏は涼しく、冬は暖かく、大半の地域は年間を通じて十分な降雨に恵まれています。スイスの気候は、アルプスを境に北部と南部ではっきりと分かれます。南部は地中海性気候の影響を大きく受けており、北部に比べて冬季は格段に温暖です。スイスの気温は、主として海拔に左右されます。北部の低地では1月の平均気温は1℃、7月は17℃前後ですが、南部の高原では平均気温がそれらを2-3℃上回っています。

www.meteoschweiz.ch

天気と気候

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

1.3 政治制度

1.3.1 連邦制度

スイスは国民自らの意思で創設された国家であり、言語や宗教が異なる複数の民族から構成されています。近代国家としてのスイスが成立したのは1848年です。それ以前のスイスは、独立した州の緩やかな連合体でした。インターネットのアドレスなどで用いられるスイスを表す略字の(CH)は、正式なラテン語名のコンフェデラチオ・ヘルベティカ(Confoederatio Helvetica)に由来しています。

スイスは連邦制を採用しており、市町村、州、連邦という3つのレベルで政治が行われています。連邦政府は外交・安全保障、関税、金融制度、国内法令、防衛など憲法に定められた分野を担当しています。26の州には、国際的にも大きな権限が委ねられています。ヘルスケア、教育、文化はこういった政治分野に含まれており、各州は大きな決定力を行使することができます。また、小規模で柔軟性のある政治組織であることから、各州は様々な分野で互いに競い合うこともあります。連邦制により、国民や産業界にとって政治は非常に身近なものとなっています。これは、公共サービスの多くが州や市町村レベルで引き取られ、実施されていることによります。州と市町村には一定の自治が認められ、各地域のニーズに合った政策をとることができるのです。

www.ch.ch
連邦、州、および市町村に関するオンライン情報
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

1.3.2 連邦レベルでの三権分立

連邦憲法は国民をスイスの主権者、すなわち議会を選出する最高の政治機関と定めています。すべての国民は、国民投票(レファレンダム)や国民発議(イニシアティブ)を通じて、憲法や法律の策定に参加する権利を持っています。

連邦の立法府、すなわち議会は二院制です。国民の代表である200人の議員から成る国民議会と、26州の代表である46人の議員から成る全州議会で構成されています。国民議会は4年ごとに国民の直接選挙で選出され、各州がそれぞれひとつの選挙区となります。州ごとに人口に比例した数の議員が選出されますが、どの州も最低1人の代表を選出する権利があります。

連邦政府は連邦参事会と呼ばれ、合議制で運営されています。両院議員で構成される連邦議会合同会議によって7人の閣僚が選出され、7つの省のいずれかを担当します。さらに、輪番制のもと、連邦参事会の代表が1年ごとに大統領職を交替で務めています。

スイスにおける司法権の最高機関は、ローザンヌにある連邦最高裁判所です。また、ルツェルンには連邦保険裁判所、ベリンツォーナには連邦刑事裁判所、ザンクトガレンには連邦行政裁判所がそれぞれ置かれています。

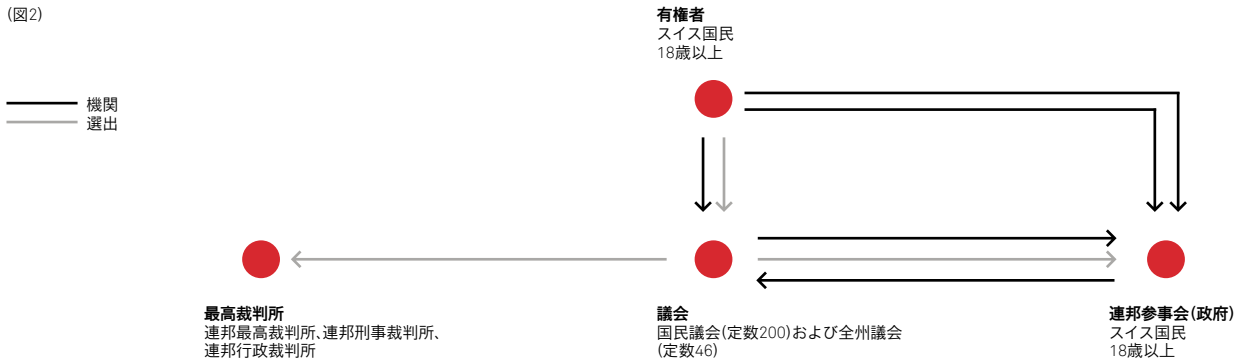
www.bger.ch
連邦最高裁判所/保険裁判所
言語：ドイツ語、フランス語、イタリア語

www.bstger.ch
連邦刑事裁判所
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

www.bvger.ch
行政裁判所
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

スイスの政治制度

(図2)



1.3.3 直接民主制と合議制

スイスほど国民に大幅な共同決定権がゆだねられている国は類を見ません。国民は国民発議(イニシアティブ)によって憲法の改正や条項の追加を請求することができ、国民投票(レファレンダム)によって議会の決議の可否を判断することができます。長い民主主義の伝統に加え、国や人口の規模が相対的に小さく、高い識字率によって多様なメディア媒体を利用できるといった要素が、こうした特殊な国家形態を支えてきました。通常だと年に4回、有権者は連邦法案に対して投票する機会があります。

スイス政治の特徴は合議制にあります。何十年もの間、主要政党が連立形式で7人の連邦閣僚を指名してきました。同様に、当選した候補者のみが議席を獲得するのではなく、得票数に応じてすべての政党に議席が配分されます。決議内容に応じて、多数派の構成は異なります。そのため、できる限り多くの団体が議題に対して意見を表明することができ、幅広い支持に基づく妥協案の実現が図られています。連帯と合議制の原則のもと、合意に達しようとする努力がスイスの政治的安定に大きく貢献しているのです。

1.3.4 政治的安定と社会の調和

スイスは各種調査において、安全、私的財産、社会的なまとまり、政治的安定の面で、国際比較で常に高い評価を得ています(図3)。スイス国民は、独立性に大きな価値を置いています。異なる言語や文化が並存していても、国内は極めて安定しています。スイスには、非常に高い寛容さがあり、個人の自由が尊重されているのです。合議制の原則は、労使関係や代表者間の関係にも適用されます。労使ともに、交渉による問題解決に努めています。このような社会の調和を背景に、何十年にもわたってスイスは広い範囲で繁栄し続けてきたのです。

www.admin.ch
スイス連邦当局
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

「スイスは、非常に寛容で、
個人の自由を尊重する国です。」

政治的安定、2017年

安定=10、不安定=0

(図3)

1	ノルウェー	9.47
2	デンマーク	9.30
3	スイス	9.22
4	ニュージーランド	9.10
5	カナダ	8.93
6	シンガポール	8.75
7	ルクセンブルク	8.64
11	ドイツ	7.87
12	オランダ	7.86
13	中国	7.79
14	日本	7.70
15	オーストリア	7.40
17	インド	7.24
18	アイルランド	7.23
24	香港	6.26
25	フランス	6.24
28	英国	6.02
30	米国	5.81
37	ロシア	5.36
49	イタリア	3.94

出典：IMD世界競争力センター、2017年

1.4 財政

スイスは、その安定志向に定評があります。EU諸国や主要先進工業国に比べると、インフレ率は格段に低く抑えられています。同じことが失業率にも当てはまり、常に4%を下回っています。スイスでは金利水準も伝統的に低いのですが、同時に、貯蓄率の高さも特徴的です(2015年の国民総所得に対する民間貯蓄は23.2%に上ります)。

財政支出比率は、財政支出が国内総生産(GDP)に占める割合を算定したものです。この中には自治体による支出と強制加入の社会保険が含まれており、スイスの財政支出比率は、33.8%(2016年)となっています。一方、欧州諸国では、財政支出が50%を大きく上回ることも稀ではありません。

スイスの財政状況は健全です。これは中央政府である連邦だけでなく、州や市町村にも当てはまります。余剰率は、2015年末で名目国内総生産の0.6%となっています。

公的債務も、欧州のほとんどの国より低く抑えられています。公的部門の債務残高は、対GDP比で33.3%でした(2016年)。EU加盟国の平均(92.4%)と比較すると、スイスの債務率は非常に低いことが分かります。欧州諸国の過半数がスイスよりはるかに高いレベルの債務を抱えています(2016年：イタリア：132.8%；フランス：96.9%；ドイツ：67.7%)。

www.efv.admin.ch
連邦財務局(EFV)
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

1.5 中立性

スイスの外交政策は、中立性の原則に基づいています。しかし、中立性を尊重するからといって、国際情勢の傍観者にとどまるということではありません。スイスは、2002年より国連に加盟し、国連の専門機関において重要な役割を果たしてきました。さらにスイスは、欧州自由貿易連合(EFTA)をはじめとする重要な経済機関で、現在に至るまでずっと積極的な役割を担ってきました。

スイスは、1515年から中立を守り、1815年に終結したナポレオン戦争後は欧州列強にもその立場が認められてきました。欧州には、スイスほど長く中立性の伝統を持つ国はありません。冷戦終結後、スイスは中立性のありかたを緩和しました。北大西洋条約機構(NATO)の役割が変化し、治安維持任務が増加したため、スイスも1996年にNATO平和協力協定を締結しました。中立な立場を買われてスイスが仲介役を担うことも少なくありません。場合によっては、正式な国交のない国家間の利害をスイスの外交官が代弁することもあります。政治的にデリケートな会談や会議の開催地として、スイスは中立的な領土を提供しています。

www.eda.admin.ch
スイス連邦外務省(FDFA)
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

「スイスの公的債務は、欧州の大半の国よりはるかに低く抑えられています。」

1.6 人口

スイスの定住者人口は、およそ840万人に上ります。人口構成比をみると、20-39歳が26.7%、65歳以上が18.1%、20歳未満が20.1%を占めています。スイスは世界最長寿国に数えられ、その平均寿命は男性が81.5歳、女性が85.3歳という長さです。住宅地が比較的分散しているため、過密状態には至っていません。人口の3分の2以上が、5大都市(チューリヒ、ジュネーブ、バーゼル、ベルン、ローザンヌ)とその周辺の都市圏で暮らしています。

4つの言語が公用語として認められています。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語です。スイスの北部、東部および中央部ではドイツ語が話されていますが、日常のやりとりでは方言(スイスドイツ語)が一般的です。スイス西部のロマンディーおよびミッテルラントの一部では、フランス語が用いられています。南部(ティチーノ州)では、イタリア語、グラウビュンデン州の一部地域ではロマンシュ語が話されています。

外国人率は25%です(2016年現在)。スイスへの移住は、かつては社会的基盤の弱い人々を中心でしたが、現在ではドイツの熟練労働者を中心に、高度人材といえる外国人の移住が増加しています。

www.statistik.admin.ch
 スイス連邦統計局(BFS)
 言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

1.7 多様な価値観への開放性と国際性

1.7.1 言語と起源

スイスでは、国民の大半が少なくともひとつの外国語を話します。小学生の段階から外国語を身に着けていることも珍しくありません。小学校では、早期に英語の授業が導入されているのです。他国からの移住などもあり、開放的な土地柄によって、多様な言語が実際に話され、コミュニケーションの手段として使われています。国際的なビジネスの場では、各国の言語とともに英語がよく使われ、経営者の多くは英語で仕事をしています。

多様な言語や宗教、多くの外国人居住者が共生しており、スイスは異文化に対して非常にオープンで寛容です。KOFグローバル化指数で、スイスは多様な価値観に開かれた経済圏の第2位に入りました(図4参照)。この開放性により、外国企業はスイスを拠点として事業を展開することができるのです。欧州はスイスにとって最大の取引相手ですが、米国やアジアなど他の市場とも密接な関係にあります。特に金融の中心であるチューリヒとジュネーブは、異文化のつぼです。文化面でも、スイスは寛容で開放的な伝統を守ってきました。中立を国の政策に掲げているため、世界のどんな国とも交流することができ、相互の連携にも前向きなのです。こうした多様性があるからこそ、国際企業だけでなく、多くの国際機関がスイスに拠点を設置しているのです。

1.7.2 国際機関

スイスは、政治的独立性が高く、国際理解も含め意識の高い献身に取り組む国です。そのため、ジュネーブに本部を置く国際連合をはじめとして多くの国際機関が拠点を構えています。また、国連のアドバイザーを務める約250の非政府組織が本拠地をスイスに置いています。

国際的な経済指数、2015年

(図4)

総合ランキング		経済面	社会面	政治面
1	オランダ	3	19	5
2	スイス	9	3	8
3	スウェーデン	15	13	6
4	オーストリア	14	8	9
5	ベルギー	4	10	7
6	デンマーク	12	4	17
7	フランス	24	17	2
8	ドイツ	26	15	3
9	フィンランド	19	11	18
10	ノルウェー	29	1	26
14	アイルランド	6	5	67
15	カナダ	43	9	14
19	イタリア	44	39	1
23	米国	63	29	10
26	ルクセンブルク	7	2	82
32	シンガポール	1	28	104
36	日本	62	42	24
55	ロシア	108	93	27
88	中国	148	137	13
95	ブラジル	152	114	52

出典：KOFグローバル化指数、2018年版

スイスに本部を置く国際機関と主要NGO

(図5)

経済と貿易			
AITIC	国際貿易情報センター	ジュネーブ	www.aitic.org
BIS	国際決済銀行	バーゼル	www.biz.org
EFTA	欧州自由貿易連合	ジュネーブ	www.efta.int
WEF	世界経済フォーラム	ジュネーブ	www.weforum.org
WTO	世界貿易機関	ジュネーブ	www.wto.org
法制			
ACWL	WTO法諮問センター	ジュネーブ	www.acwl.ch
Court OSCE	欧州安全保障協力機構内調停仲裁裁判所	ジュネーブ	www.osce.org/cca
ISO	国際標準化機構	ジュネーブ	www.iso.org
WIPO	世界知的所有権機関	ジュネーブ	www.wipo.int
教育と研究			
CERN	欧州原子核研究機構	ジュネーブ	www.cern.ch
ISSI	国際宇宙科学研究所	ベルン	www.issibern.ch
WMO	世界気象機関	ジュネーブ	www.wmo.int
社会と文化			
IBE/UNESCO	国際教育局／国連教育科学文化機関(ユネスコ)	ジュネーブ	www.ibe.unesco.org
EBU	欧州放送連合	ジュネーブ	www.ebu.ch
GFATM	世界エイズ・結核・マラリア対策基金	ジュネーブ	www.theglobalfund.org
IFRC	国際赤十字・赤新月社連盟	ジュネーブ	www.ifrc.org
ICRC	赤十字国際委員会	ジュネーブ	www.icrc.org
ILO	国際労働機関	ジュネーブ	www.ilo.org
IOM	国際移住機関	ジュネーブ	www.iom.int
IPU	列国議会同盟	ジュネーブ	www.ipu.org
IRU	国際道路運送連盟	ジュネーブ	www.iru.org
ITU	国際電気通信連合	ジュネーブ	www.itu.int
OTIF	国際鉄道輸送政府間組織	ベルン	www.otif.org
UNHCR	国連難民高等弁務官事務所	ジュネーブ	www.unhcr.org
UNOG	国連ジュネーブ事務所	ジュネーブ	www.unog.ch
UPOV	植物新品種保護国際同盟	ジュネーブ	www.upov.int
UPU	万国郵便連合	ベルン	www.upu.int
WHO	世界保健機関	ジュネーブ	www.who.int
WWF	世界自然保護基金	グラン	www.wwf.org
スポーツ			
FIFA	国際サッカー連盟	チューリヒ	www.fifa.com
FIS	国際スキー連盟	トゥーン	www.fis-ski.com
IIHF	国際アイスホッケー連盟	チューリヒ	www.iihf.com
IOC	国際オリンピック委員会	ローザンヌ	www.olympic.org
UCI	国際自転車競技連合	エーグル	www.uci.ch
FIBA	国際バスケットボール連盟	ミー	www.fiba.com
UEFA	欧州サッカー連盟	ニヨン	www.uefa.com
WADA	世界ドーピング防止機構	ローザンヌ	www.wada-ama.org

出典：連邦外務省(FDFA)、独自調査

1.8 数字で見るスイス

数字で見るスイス、2017年

(図6)

一般	
通貨	スイスフラン
タイムゾーン	中央欧州標準時(CET) = 協定世界時(UTC) + 1
国際電話国番号	+41
国民の祝日	8月1日
経済	
国内総生産(名目、単位：10億スイスフラン)	6,501
1人当たり国民所得(単位：スイスフラン)	59,708
GDP成長率(実質)	1.3%
インフレ率	0.5%
失業率	3.4%
物品およびサービスの輸入(単位：10億スイスフラン)	1,732
物品およびサービスの輸出(単位：10億スイスフラン)	2,107
財政収支(対GDP比)	0.6%
債務(対GDP比)	33.3%
歳入(対GDP比)	27.8%
直接投資(単位：100万スイスフラン)	
対外資本ストック	1,120,843
対内資本ストック	833,193
資本輸出	100,100
資本輸入	67,750
人口	
定住人口(単位：1,000人)	8,419.6
1平方キロメートル当たりの人口密度	204
年齢階層ごとの人口(%)	
0 - 19歳	20.1
20 - 39歳	26.7
40 - 64歳	35.1
65 - 79歳	13.0
80歳以上	5.1
外国人率	25.0
合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む平均の子どもの人数)	1.5

平均寿命(歳)	
男性	81.5
女性	85.3
宗教	
ローマカトリック	37.3%
プロテスタント	24.9%
その他	13.9%
言語	
ドイツ語	64.1%
フランス語	22.7%
イタリア語	8.4%
ロマンシュ語	0.6%
地理	
面積(km ²)	41,285
国境線総延長(km)	1,881
湖沼の数	1,484
最高峰(m)：デュフルシュピッツェ(ヴァレー州)	4,634
最大の氷河：アレッチュ氷河(ヴァレー州)	117 km ² /24 km
最大の湖(km ²)：レマン湖	582
2番目の湖(km ²)：ボーデン湖	539
首都	ベルン
大都市圏(単位：1,000人)	
チューリヒ	1,334.3
ジュネーブ	579.2
バーゼル	541.0
ベルン	410.9
ローザンヌ	409.3
政治	
国家形態	1848年より議会制連邦国家、 直接民主制
州の数	26 (20州と6準州)
市町村の数	2,222

出典：連邦統計局(BFS)、スイス国立銀行(SNB)、連邦財務局(EFV)、経済管轄庁(SECO)